

図書リスト

最近の寄贈書

太田信義, 坂井典佑: 超対称性理論; 現代素粒子論の基礎として

サイエンス社, 東京, 2006, v+166p, 本体 1,819 円 (臨時別冊・数理科学 2006 年11月 SGC ライブラリー-51)

近 桂一郎: 振動・波動

裳華房, 東京, 2006, xi+307p, 本体 3,300 円 (裳華房フィジクスライブラリー)

谷村省吾: 理工系のためのトポロジー・圏

論・微分幾何; 相対性の視点から

サイエンス社, 東京, 2006, vii+205p, 本体 1,886 円 (臨時別冊・数理科学 2006 年12月 SGC ライブラリー-52)

中根良平, 仁科雄一郎, 仁科浩二郎, 矢崎祐二, 江沢 洋編: 仁科芳雄往復書簡集; 現代物理学の開拓 I コペンハーゲン時代と理科学研究所・初期 1919-1935

みすず書房, 東京, 2006, xxiv+410p, 本体 15,000 円

中根良平, 仁科雄一郎, 仁科浩二郎, 矢崎祐二, 江沢 洋編: 仁科芳雄往復書簡集;

現代物理学の開拓 II 宇宙線・小サイクロトロン・中間子 1936-1939

みすず書房, 東京, 2006, xix+468p (pp. 411-878), 本体 15,000 円

丹羽雅昭: 超伝導の基礎 [第 2 版]

東京電機大学出版局, 東京, 2006, vi+489p, 本体 5,300 円

和田純夫, 大上雅史: 電気と磁気

岩波書店, 東京, 2006, xv+163p, 本体 1,900 円 (高校物理のききどころ 2)

男女共同参画推進委員会だより No. 1

日本物理学会と男女共同参画推進活動について

日本物理学会に男女共同参画推進委員会が設置されて 5 年目に入る。この数年, 男女共同参画について社会の認識が大きく変化し, 文科省をはじめ各省庁においていくつかの具体的推進プログラムが提示されている。この機会に, 男女共同参画推進に関し, 日本物理学会の取組みを整理すると同時に, 学会員に対して各種プログラムの紹介を行い, その現状を理解して頂きたいと思う。そこで本委員会から, 活動報告や関係する政府施策の紹介など, 本誌に定期的に記事を書かせて頂くことにした。初回は, 本委員会のこれまでの活動の簡単な紹介と, 活動の成果ともいえる男女共同参画関連施策の紹介を行う。

男女共同参画推進活動は, 80年代は個人的活動が中心であったが, 2000年に IUPAP (International Union of Pure and Applied Physics) に “Women in Physics” の Working Group (WG) が設けられ, 2002年パリで “Women in Physics” の会議が開催されることになった。これを契機に福山秀敏氏が IUPAP WG 委員として, 日本物理学会と応用物理学会会長に真摯な取り組みを要請した。日本物理学会では, 北原和夫副会長 (当時) を委員長にパリ会議準備委員会を発足させ, 坂東昌子氏を中心に, 「現状理解を目的とした

アンケート調査と問題抽出」として, 物理学会全会員対象に研究者環境の調査を行った。女性研究者の視点からの分析結果は参考資料 1 に, その後の分析結果は参考資料 2 に報告されている。

日本物理学会男女共同参画推進委員会は, 2002年坂東氏を第 1 期委員長として発足し, 上記アンケート分析結果に基づき, 文部科学省, 研究機関, 研究助成機関に対する 2 つの提言 (育児支援制度の整備に関する提言, 科学研究費への申請枠拡大に関する提言) を行った。また北原氏と坂東氏は, 2002年に応用物理学会および日本化学会と協力して, 男女共同参画学協会連絡会をスタートさせた。男女共同参画学協会連絡会は, 平成15年度文科省委託事業として「21世紀の多様化する科学技術研究者の理想像—男女共同参画推進のために—」という 2 万人規模のアンケート調査を行った。このアンケートは学会を跨る規模の大きさにおいて, 他国の活動にも影響を与えるものとなっている (参考資料 3)。

第 2 期 (2004年 9 月～2006年 8 月, 鳥養映子委員長) は, 第 3 期科学技術基本計画 (2006年 3 月) および第 2 期男女共同参画基本計画 (2005年 12 月) 策定の時期にあたり, これらのアンケート調査の結果に基づき, 文科省と内閣府男女共同参画局に対して, 連絡会と

協調して, 提言 (育児支援制度の整備に関する提言, 研究助成への申請枠拡大に関する提言), 要望, 意見等による働きかけを行った。さらに連絡会アンケートの英訳版を作成し, これをもとに海外に日本の活動状況を知らせたり, アジアの女性物理学会のネットワーク (Asian Women in Physics) を作ったりと, さまざまな組織との連携作りに力を注いだ。第 2 期の活動で波紋を呼んだのは, 国立女性教育会館, 科学技術振興機構の支援のもと, 日本学術会議および学協会連絡会らと共同して開催した「女子高校生夏の学校～科学・技術者のたまごたちへ～」である。この発案は, Asia Pacific Physics Conference (2004年 10 月 ハノイ) 円卓会議 Women in Physics において韓国における女子高生物理キャンプの活動に励まされた鳥養氏が, 我が国では, まず理工系全体の女性人口を増やす取り組みが必要と痛感したことから始まっている。この企画は, マスコミにも大きく取り上げられ, 関係者に大きな共感を与えた。本年度は文科省主催として第 2 回夏の学校が開催されると同時に, 文科省において新たな「女子中高生理系進路選択支援事業」が立ち上がった。

以上のように, 日本物理学会における男女共同参画推進活動は, 他学協会と共同して推進する大きな活動であると同時にまた, 世界とも協力・連携するものとなっている。例えば, 「女子高校生夏の学校」はアジア諸国の活動を刺激としてスタートし, また「21世紀

の多様化する科学技術研究者の理想像」アンケートは諸外国に大きな刺激を与えるものとなった。男女共同参画推進は、日本だけ、あるいは物理の世界だけの問題ではないことから、当然の結果ともいえる。日本物理学会が広く社会をつなげたものとなるためにも、他の委員会活動においても同様の視点が必要ではないだろうか。

男女共同参画に関する社会的要請と、上述した学協会連絡会の活動が、政府機関への働きかけの強い推進力となり、今年度より次のようなプログラムが始まっている。中でも、(1)と(2)が物理学会会員に関係する内容であるため、簡単な説明を加えた。

(1) 出産・育児等による研究中断からの復帰支援(日本学術振興会特別研究員事業)

対象者は、研究中断から復帰する博士課程修了者等である。優れた男女の研究者が出産・育児等により研究を中断した後に、円滑に研究現場に復帰できるように、研究奨励金を支給するもの

である。理系と文系を合わせた公募制で、平成18年度採択件数は30件であった。月額36.4万円、2年間支援。応募件数が多く倍率が5倍近くになったため、来年度から採択件数が増加する見込みである。

(2) 女性研究者支援モデル育成(科学技術振興調整費)

このプログラムは、大学や公的機関に資金援助される。優れた女性研究者がその能力を最大限発揮できるようにするため、大学や公的機関を対象として、女性研究者が研究と出産・育児等を両立するための支援を行う仕組みを構築する優れた取組みを支援するものである。年間2~5千万円で、原則3年間支援。平成18年度には10大学が採択された。

(3) 研究者・技術者と中高生の交流会や事例紹介(文部科学省基盤政策課事業)

(4) 女子中高生の理数への関心を高める取組みの拡充(科学技術振興機構事業)

(5) 女性の理工系進路選択支援を行う社会教育関係者等への取組み(文部科学省男女共同参画学習事業)

今回は、上記プログラムのもう少し詳しい紹介を行う予定である。

(文責: 井上順一郎)

本委員会ホームページ: <http://www.soc.nii.ac.jp/jps/jps/triangle/index.html>

参考資料

- 1) 会員アンケートの分析結果報告 I, II, III, 日本物理学会誌 57 (2002) No. 5, p. 345; No. 8, p. 600; No. 9, p. 673. 英訳版 "Women in Physics, The Physical Society of Japan, Member Survey Analysis Report" (URL: <http://www.soc.nii.ac.jp/jps/jps/triangle/jpsurvey/JPSsurvey-e.pdf>).
- 2) 物理学会員の研究環境は今?—アンケート調査を中心に—, 日本物理学会誌 60 (2005) No. 6, p. 466. (URL <http://www.soc.nii.ac.jp/jps/jps/triangle/jpsurvey/s-report/index.htm>).
- 3) 21世紀の多様化する科学技術研究者の理想像—男女共同参画推進のために— 男女共同参画学協会連絡会 (2004).

(2006年12月28日原稿受付)

『大学の物理教育』誌定期購読のすすめ

『大学の物理教育』は、年3回(3月, 7月, 11月)発行で年間購読料(個人)は1,000円です。購読ご希望の方は、お電話(03-3434-2671)またはFax(03-3432-0997)宛にご連絡ください。『大学の物理教育』編集委員会

Vol. 13-1 (3月15日発行) 予定目次

隣のおばさんもすなる物理というものを……………鳥養映子
特集「2006年問題」

思考力と読解力不足をクイズと動画でカバー……………鈴木久男
学習指導要領変更の影響……………鈴木 勝, 伊東敏雄
新入生の数学力の変遷と2006年問題……………伊沢瑞夫
高校の物理と大学の物理のギャップを埋める1年生の講義

……………香川貴司
大学でも拡大する科学リテラシーの格差……………長野八久
特集 実験改革

東京大学教養学部における基礎実験改革……………久我隆弘
講義と連携していない学生実験における実験前インストラク
ションの設計—東北大学「自然科学総合実験」課題7「光の
スペクトルと太陽電池」を例に—

……………陳 輝, 藤原充啓, 岩崎 信
北海道大学の物理学実験教育について……………中原純一郎
講義室

「サイエンス・ラボ」—学生主体の演習実験開発組織

……………鎌田啓一, 松本宏一, 阿部 聡,
安藤利得, 藤竹正晴, 佐藤政行

大学院生による出前授業—NPO法人 Science Station の活動—
……………山崎詩郎

球面上の電場は定義すべきか……………北野正雄
実験室

シリッジを利用した大学初級用熱力学実験種目の開発
……………畠山 温, 解良春恵, 塚 和光

教育実践
デモンストレーション用リニアモーターカーの開発とその効果
……………重松利信, 渡辺哲也, 城野祐生,

森 保仁, 中村真一, 森下浩二

海外の動向
アメリカ州立大学における入門物理……………吉永契一郎

教育に関する一言
……………青野 修/法橋 登

開催情報
編集後記